

令和3年度 第9回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和3年12月9日(木)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 野村 宏治
午後 2時00分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 今井 誠
↓		
午後 4時30分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 兼 米田 昭嗣
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	国体推進課長
	教育委員 福里 由加	

会議要旨

1 開会

定刻、定足数に達しており、令和3年度第9回教育委員会定例会を開会した。
議案第18号は、教育長から、非公開で審議する旨の発議があり全会一致で議決された。

2 令和3年度第8回定例会会議録の承認

承認

3 議事

議案第18号 令和4年度垂水市一般会計当初予算要求について

4 その他

5 委員並びに教育長及び課長報告

6 閉会

議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
議案第18号 令和4年度垂水市一般会計当初予算要求について	令和4年度当初予算案の作成について、教育委員会の意見を申し出ようとするものである。	特記事項なし	承認

議 事 内 容 等

3 議 事	<p>議案第18号 令和4年度垂水市一般会計当初予算要求について (非公開) (議案第18号 承認)</p>
4 その他 教育総務課長	<p>新型コロナウイルスも、オミクロン株が世界各国で確認され、第6波が懸念されているが、現在、全国の感染者数も落ち着いており、鹿児島県では警戒レベル0、感染者もここ何日も確認されていないことから、教育委員と教育委員会職員との情報交換会を提案し、教育委員の了承を得た。 参加人員については、教育委員会定例会出席メンバーとし、開催時期は1月下旬以降の金曜日とする。1月の教育委員会定例会時に再度、日程の調整を行うこととする。1月28日(金)を提案する予定。</p>
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告。
教育長	委員並びに教育長及び課長報告に入る。

田原委員

「水之上地区公民館グラウンドの芝張り作業」

11月21日の日曜日に、水之上地区公民館グラウンド2,500㎡の芝張り作業を行った。この事業は、町づくり10年計画の最終年度の事業である。11月1日から工事範囲の測量、重機による下地整地、堆肥散布、トラクターによる起耕、ローラーによる転圧などの工程を進め、前日の20日には、芝業者のある鹿屋市から水之上まで、地元の建設業者5社のボランティアでユニック付トラック5台が3往復して芝62パレットを運んできてもらった。自分達で取りに行けば値段が芝一枚当たり100円安くなるということで、地元の建設業者さんに運んでもらったわけである。当日の21日は絶好の天気恵まれて、募集していた地元住民ボランティア60人が4班に分かれ、3人1組で作業をした。丸1日はかかると思っていた2,500㎡の広さの芝張りを、ものの半日で仕上げてしまった。測量、整地、下地の調整、芝の運搬、芝張り作業、全て地元住民のボランティアである。(勿論、市からの交付金で芝を購入し、農林課からは堆肥を撒いてもらったのだが。)最後の芝張りだけは60人集めるために、日当3,000円に弁当を付けた有償ボランティアではあったが、しっかりと協力してもらってとても綺麗に仕上げることができた。市の体育館から水まき用のホースとスプリンクラーも貸してもらい、毎週一回ずつ水を撒いている。それにしても地元の皆さんの協力には、頭の下がる思いであり、水之上地区住民の底力を改めて感じた一日であった。

「垂水高校の水之上史跡巡り」

芝張りをした翌日の11月22日の月曜日は、昨日とは打って変わって生憎の雨模様だった。芝張りの翌日だったので私達にとっては恵みの雨だった。そのような中、垂水高校の生徒たちが史跡巡りの途中で公民館に立ち寄ったが、冷たい雨の中での史跡巡りは、かわいそうだなと思った。トイレ休憩を済ませた後、水之上公民館には、男女河原祭の看板が立っているので、その祭りの謂われについて話をしてほしいということで、自分も余り詳しくは知らないのだが生徒たちに説明を行った。中世の頃は、上本城に城を築いた伊地知氏が越前の国(今の石川県)からやってくる時、白山神社を分祀して、垂水の高隈山の一峰、今の白山に神社を建てて祭った。その神社の祭りを、旧垂水カントリー(ゴルフ場)の下のあたりに白山神社の神田(御田)があり、その辺りの河原(こら)で祭りをやったので、“オンドのコラ祭り”が“おんだんこら祭り”となり、時代を経て、この祭りが男女の出会いの場、社交場になったので「女男河原祭り」と書くようになったのではないのでしょうかと説明した。今はこの祭りを、水之上地区公民館が引き継いで、4月の第一日曜日に、この公民館で行っている。史跡巡りのグループが到着する度に同じ話を3~4回説明したが、生徒たちの表情を見ると、雨に濡れて寒そうだったので、はし折って説明し、早く回れるようにしてあげることだった。手貫神社(上之宮神社)の境内で昼食の予定であったようだが、濡れていることもあり、公民館の1階、2階を開放して、昼食及び休憩場所として提供してあげた。垂水高校の生徒達と久しぶりに会うことができ、とてもよい機会であった。また、垂水高校の生徒たちは、挨拶や後片付けもしっかりできて立派な態度であった。

葛迫委員

「垂水市文化協会の展示会について」

コロナ禍によって昨年から垂水市の市民文化祭が開催できなくなっている。しかし、今年はこのコロナ禍の中で、垂水市文化協会の展示部門については「道の駅たるみずはまびら」で、舞台部門については同会場でビデオ放映という形で11月21日～23日まで開催された。

展示部門については、会場が非常に狭く作品を少なくしないといけないとのことで、写真についてはフォトフレンズ、ちぎり絵、編み物、切り絵、垂水俳句会・垂水書道・美術倶楽部の会員の方々の作品が展示された。例年の市民館大ホール会場と違って、随分狭い会場での会員の気配りに改めてコロナ禍の展示の難しさを感じた。会場には多くの鑑賞者が見えていたが、鑑賞者が増えれば増えるほど密になる。少しでも多くの市民に見てもらいたいとした取組に企画された文化協会の会長さん、垂水市社会教育課の職員の方々に感謝したい。

舞台部門についてはビデオが設置されていて、たるみずよさこい踊り、フォークダンスの「赤い靴」、舞踊では藤間流・綾木流・春日流・T&ストリートダンス・津軽三味線・子供たちの若草文学賞の優秀賞の朗読が放送されていた。コロナが落ち着くのか落ち着かないのか分からない中で、文化祭・音楽会など、小・中学校の文化祭もそうであるが、なかなか見る機会がなくなって、今年の中中での文化祭も見ることができなかったのであるが、何とか危機を乗り越えて来年こそは、展示舞台部門共に文化会館や市民館が利用できて開催されることを期待している。

田之上委員

「秋の読書祭りのお話し会に参加して」

先月は、大切な定例会に参加できずに申し訳なく思っている。ちょうどその時間帯は、垂水小学校での秋の読書祭りのお話し会に参加させていただいていた。今年もコロナ禍での対応ということで、1、2年生のみの学年毎の実施となった。私達も楽しいお話の時間になるように、大型の絵本を使った読み聞かせや、エプロンシアター・パネルシアター等を取り入れて行った。子供たちも、笑ったり、あちこちで吹きがでたりと楽しんで聞いてくれていたようだった。また、同じく26日には、協和小学校の読書集会にも参加させていただき、垂水小学校と同じような話し会を行った。子供たちの聞いてくれている様子を見ると、私達も楽しい気分になった。私達のこの活動が、子供たちが本と出会うちょっとしたきっかけになればいいなと思うことであった。

「垂水中央中学校の合唱コンクール・文化祭に参加して」

11月14日は、垂水中央中学校の合唱コンクール・文化祭だったが、私は学校応援団活動で参加し、保護者の方の受付の手伝いをした。多くの保護者が参観に来られていた。皆、学校側から前もって配布されていた検温表なども記入されており、すごくスムーズに受付を行うことができた。本来なら、ご家族や祖父母の方々もご覧になりたかっただろうなと思うと、やっぱり少し残念な気持ちになった。その合間で、展示作品や合唱コンクールを参観させてもらった。国語科や家庭科の作品をはじめ、夏休みの宿題や課題等もありながら、英語のものやタブレットを使った調べ学習など

多岐にわたり見応えのある作品であった。中学校は頑張っているなど改めて思うことであった。合唱コンクールは例年のことではあるが、どのクラスも心を一つに合わせて美しいハーモニーを響かせており、素晴らしいコンクールであった。校長先生方との懇談会では、教育長の発案で座談会のような形式であったためか、ざっくばらんにお話を伺うことができるとてもよかったと感じることだった。

先般、東川隆太郎さんが、子供たちと地元の町を歩くという行事があり、私達は児童クラブの子供たちを連れて参加した。1～2年生が殆どなので、東川さんの話をどれだけ理解できたかは分からないが、お長屋の中に入ったり、お話を聞きながら、この通りがどうだとか、お殿加下神社に行ったり、垂水人形の展示を見たりしながら、実際に歩いて見学できたことはとてもよかったと思うことだった。東川さんはテレビで見るような語り口で喋られるので、私には凄く楽しく思えた。ただ、児童クラブ以外の参加者が2人しかいなかったのが少し残念に思えた。

「小学校の持久走大会について」

福里委員

11月13日の第二土曜日に垂水小学校の持久走大会が行われた。今年度も新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、観戦者は各家庭2人までと人数が制限されていた。会場は垂水スポーツランドで行われ、コロナも丁度落ち着いている状況だったので、皆で応援に行けるといいなと思っていたが、やはり2人までと言われた。しかし、垂水小学校では、このことがなかなか守られていない。スポーツランドなので実際に観戦者のチェックは勿論ない。運動会にしても2人までと決められているのに、垂水小学校の場合は守られていないように思えて残念である。当日は天気もよく、皆元気に走る姿が見受けられた。息子たちのクラスは持久走大会に向けて試走を含め、3回のタイム測定を行い本番に臨んだそうだ。息子は毎朝早く登校し、校庭を10周ずつ走る日々が続いていた。その中でタイムがなかなか伸びないと、毎回、タイム測定毎に残念そうに私に報告してくれた。持久走大会の2、3日前に担任の先生が見かねたのか、「毎日、朝のランニングを頑張ったから、本番では必ずいいタイムが出るよ。」と言ってくださったと嬉しそうに報告してくれた。当日登校するときは、いつになく緊張している様子だったが、結果は自己ベストタイムを20秒も更新し、順位もこれまで5位が最高だったが、今回は3位だった。息子は帰ってきてすぐに「朝のランニング頑張ってよかった。」と嬉しそうに話してくれた。努力してもなかなか報われない事も多いが、この日ばかりは、努力は本当に報われるのだと嬉しく思えた日であった。その日以来、息子は「努力」という言葉が好きになっただけでなく、タブレットで「努力」について検索し、「努力って報われない事もあるけど努力することで経験が残るんだって！努力ってすごいね。」と話をしてくれた。それ以降息子の努力している姿は見られないが、いい経験になったのではないかなと思っている。

GIGAスクールについて、最近ではタブレットを家によく持ち帰ってくるようになった。タブレットを使ってAIドリルとかの学習をする姿は見られないが、「心の天気」は付けているようである。手慣れた感じで操作をする様子を見て、「子供って、やっぱり凄いな！」と感心した。最近、保護

者の方とタブレットのことで話をする機会があった。その方は、子供がタブレットの使用について、約束事が守れず、動画を見たらいけないと分かっているのに、やはり家で動画を見ていて困っていると話をされていた。垂水小学校でも他の学校の新城小学校や柗原小学校と同様に親子でタブレットを操作したり、学んだりする機会があれば、保護者の理解が得られるのではないかと思った。

G I G Aスクール構想は全国の小・中学校で一斉に導入された事業であるが、自分は定例教育委員会で先生方から話を聞いて理解しているが、保護者は垂水のG I G Aスクールの売りというか、タブレットの家庭への持ち帰り、A Iドリル、心の天気など、県下でもあまり取り入れている自治体がないものを垂水市は導入しているということを理解していないと思う。そのことをもっと保護者にアピールすることによって、親も嬉しくなったり、よくしてもらっていると分かると思う。ただタブレットを使っているだけという認識しかなく、内容を理解していないかもしれないので、もう少し保護者へアピールすると効果が上がるのではないかと思っている。

教育長

師走を迎えて慌ただしくなってきた。こういう時こそ、小・中学校共に落ち着いた学校生活を送りながら、しっかりと2学期を締めくくることが、学校の使命だと思っている。先程からG I G Aスクールの話題になっているが、京都の立命館小学校と京都教育大附属の桃山小学校、この2校がG I G Aスクールに関しては全国トップレベルと言われている。そこで県外研修で、11月15日～16日にかけて、河野・永倉両指導主事、校長代表で亀山中央中学校長、久木田新城小学校長の4人で視察に行ってもらった。つまり、日本のトップレベルを見ることで、我々の取組の可能性と限界が見えてくるのではないかと思ったわけである。こういう地方にあって、私達に何ができるのかといった可能性と限界。もう一つは、我々のやっている取組の検証、本当に考え方とか方向性はこれでいいのかどうかの検証が欲しかったので、研修に行ってもらったのである。

立命館小学校は私学なのでお金を持ってる。年間授業料も高額である。教室の周りはホワイトボードだらけで、教室全体がまさに学びの空間になっている。びっくりしたのが、所謂、A L Tの方が、当然A L Tだから日本語も喋るのだが、すべて英語でタブレットを使った授業を行って、それに子供たちがしっかりついて行っていることである。日本のスーパーティーチャーと呼ばれる第一人者の人は、英語も流暢なので、教室の中では日本語は使われず、すべて英語。また、その子供たちの反応も凄く早い。まさにこれが日本のトップレベルというか、予算はあるし、おそらく子供たちの能力も高いでしょうから。そういう中で繰り広げられる授業の様子を見せてもらったが、子供たちも慣れた様子でタブレットを操作したり、隣同士と自由に席を離れて対話したりしていた。無駄な空間をうまく利用しながら学習を展開していつている。素晴らしいなと思いながら映像を見せてもらった。

一方の桃山小学校は、動画は見えていないが、実は立命館小学校に勤務されていた先生が副校長として行かれていますので、「私達の実践は立命館小

学校に負けません。」とおっしゃっているそうである。実際に視察に行ってもらった四人に聞いたところ、やはり桃山小学校はレベル的には非常に高く、子供たちもタブレットの操作や活用に慣れているということだった。一つには附属小学校というところもあるだろうが、その副校長さんの、「立命館はお金を掛けてやっているが、うちはお金を掛けなくてもこれだけのものができるだ。」という思いがあるのだろう。両校の所謂研修担当の先生が、垂水市のG I G Aスクール構想に対して、「よく地方でこれだけの取組ができていますね。」と言われたようである。つまりお墨付きをいただいたということなので、我々はまず方向性としては間違っていない。そういう意味では自信を持って、あとはいかに質を高めていくかが課題であると受け止めた。タブレットを持ち帰って、心の天気を付けるだけではダメなのである。質を高めるという意味で、まずは子供たちのタブレットの使い方の質を高める。勿論、それ以前に指導者の質を高める。もっと言うならば保護者なのである。保護者の理解をどう求めるかが一番大事だと私は思っている。保護者に導入したタブレットのよさを理解してもらい、「よい物だから、家庭においては学習のための文房具として使うのだ。」ということをよく理解してもらって、子供と関わって欲しいわけである。そうすることで私はこのG I G Aスクールが本当に鹿児島県で一番ではなく、一般校で日本一になれるのではないかという思いを抱いている。だから行政や学校では限界もあるので、先程課長からも話が出たが、県内の大学でも全国でも有名な先生がおられるので、その方と本市のG I G Aスクールのアドバイザー就任の約束も結んで、是非、その方の力も頂きながら、具体的な指導も頂きながら進めていきたいと思っている。私でよければ是非ということで引き受けていただいた。そのような事で、教育の原点に立って私達も頑張りますので、まずもって教育委員の方々にご挨拶をいたします。今年一年、有り難うございました。是非、また来年が子供たちにとっても、私たち大人にとっても、市民の皆様にとっても良い年でありますように願っているところである。

教育総務課長 3課長から、11月10日から12月9日までの主な行事等の実施状況について報告するとともに、1月11日（次回開催日）までの行事予定について
学校教育課長 お知らせした。
社会教育課長
国体推進課長

6 閉 会